

8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	-	-	-	-
(中国)		一般小売店 〔靴〕（経営者）	販売量の動き	・レディースシューズの販売を本格的に始めたので、女性客が増えている。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	来客数の動き	・年度初めで月前半は異動の名刺注文が増えたが、ゴールデンウィークが近づくにつれ、客の買い控えが始まっている。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	来客数の動き	・天候が安定し客足が増えている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・苦戦した前月と比較して現時点での来客数、客単価共に好調に推移しており、特に衣料品に回復傾向がみられる。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・しばらく厳しい前年割れの状況にあった婦人服の売上が3月から持ち直してきており、食品も催事を中心に好調で、景気に少し回復感がみられる。
		スーパー（業務開発担当）	販売量の動き	・近隣にディスカウント店が出店したが、対策の効果もあって全体的には前年売上を維持できている。
		スーパー（販売担当）	お客様の様子	・客の財布のひもは固いが、春物や夏物の衣服を求めて客が回遊し始めている。朝晩の冷え込みで長袖の衣服が売れている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・4月はおにぎりや揚げ物に力を入れているが、本部の政策もあって1日当たり5～6千円の売上アップができ、前年の売上をクリアしている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客単価の伸びは今一つであるが来客数は伸びている。
		コンビニ（副地域ブロック長）	単価の動き	・比較的単価が高く健康を重視した食品が好調に推移している。客は付加価値のある食品には投資を惜しまず、繰り返し購入する傾向があるので今後も売上の支えになってくる。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・来客数が増え、客単価も上昇している。
		家電量販店（販売担当）	来客数の動き	・来客数が増えている。
		家電量販店（企画担当）	単価の動き	・来客数は減少しているが、客単価が上昇しているので売上は確保できている。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・春先で人の動きはあるが、購買に結び付かない。
		その他専門店〔土産物〕（店長）	来客数の動き	・3月下旬から4月にかけて来客数が前年比117%で推移している。平日でも安定した動きを見せており、特に春休み時期は親子連れの利用が多い。来客数に比例して売上も増加し、地域の特産品や鮮魚などがよく売れている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・客単価がやや低下しているが、来客数の増加により売上が前年並みとなっている。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・前年に比べて客の流れが良く、来店につながっている。団体予約もコンスタントに入ってきており活気がある。
		一般レストラン（外食事業担当）	単価の動き	・大手外食チェーンの出店で外食目的の来客数が増加している。平日やランチタイムの客の分散で苦戦しているが、休日前と休日の売上は前年の105～108%で、3月後半から増加している平日の宴会売上は前年の135%である。来客数の減少分を客単価が押し上げ、売上を確保している状況である。
		観光型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・気候が良くなり、オンシーズンとなって客単価が上昇し来客数も増えている。
		都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・前年同様、桜シーズンに伴うインバウンド団体客の増加で、市中の宿泊施設は好調である。またインバウンド個人客も増加しており、足元の消費喚起の一因となっている。時期的にも宴会、レストラン共に歓送迎会などの団体受注が好調で、人の動きも活発になっている。
		都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・米国を始め政権交代など不安定要素はあるものの、国内旅行者やインバウンド客も緩やかな増加傾向にある。
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・景気はあまり回復していないが、旅行需要は回復してきている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・前年の102%の売上である。

通信会社（企画担当）	お客様の様子	・年度始まりで生活の区切り時期ともなり、スマートフォン関連の商材の販売と営業が順調である。
通信会社（総務担当）	販売量の動き	・年度替わりは一時的に人動きが活発になるので販売量が増加している。
通信会社（工事担当）	お客様の様子	・客の様子から景気は上向く。
テーマパーク（業務担当）	来客数の動き	・3月の寒の戻りで遅れていた花が開花し始め、入園者が少しずつではあるが増えている。
テーマパーク（営業担当）	来客数の動き	・週末を中心に天候に恵まれたことに加え、テレビCMやチラシの効果により客の動きが良い。
住宅販売会社（営業担当）	お客様の様子	・客からの問い合わせ件数が徐々に増加しており、商談内容で購入意欲が伝わってくる。
商店街（代表者）	来客数の動き	・客の財布のひもが固く、必要以上に購入しない。レジ周り品の動きが悪い。
商店街（代表者）	お客様の様子	・駅前の再開発に伴う新しい形態の店舗等に多少の客の分散があり、売上確保が厳しい。
商店街（代表者）	お客様の様子	・当店で制服を扱っているが、中古品を補正する客が増えているものの、依然として買い控え客が多い。
一般小売店〔紙類〕（経営者）	来客数の動き	・若い世代の買いまわり客が増え、売上が減少することはない。
百貨店（経理担当）	販売量の動き	・今月の販売量は前年の94%程度の見込みである。婦人服や紳士服、観光部門が不振であるが、化粧品や美術品は前年を上回る見込みである。
百貨店（営業担当）	販売量の動き	・4月上旬はセレモニー需要が落ち込んだが、外出着は前年同様の売上が確保できている。
百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・3月に復調が感じられた婦人服を中心に衣料品の動きが再度マイナス基調になっており、前年の熊本地震で低下した消費マインドの上昇や大きな景気回復は感じられない。
百貨店（売場担当）	お客様の様子	・前年好調であった白ジャケットなど春物の動きが鈍く、特にスーツを求める客が少ない。雨も多くUV関連の商材の動きも鈍い。
百貨店（購買担当）	お客様の様子	・食品の売上が良く、特に物産展では来客数と売上が前年よりかなり良い。衣料品関係は苦戦しているが、高額な美術品や宝石は富裕層が購入している。
百貨店（人事担当）	お客様の様子	・物産展やギフト関連の来客数と売上は好調であるが、衣料品は不調である。
スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数、客単価共に変化はない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・4月は前年より土曜日が1日多いが、来客数が前年の99.3%で推移している。
スーパー（店長）	販売量の動き	・天候が不順な日が多いので、旬の商品が安くならない。
スーパー（総務担当）	単価の動き	・客単価にあまり変化はなく数字的には悪くないが、景気の上向き感はない。
スーパー（販売担当）	お客様の様子	・客の購入点数の減少が顕著であり、特に衣料品では複数のアイテムを同時に購入する客が減少しているとともに、必要な商品だけを求める傾向が強くなっている。
スーパー（管理担当）	来客数の動き	・来客数は減少しているが、その他の数値に変動はあまりない。
コンビニ（支店長）	来客数の動き	・前年より若干良い状況が続いている。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・景気が良くなるような話を聞かない。
家電量販店（店長）	競争相手の様子	・2月ごろから競争相手の出した見積金額に異常なまでの薄利と原価割れが相次ぎ、それが4月になっても続いている。当社もインターネット価格に対応するなど、市場の冷え込みに対処するような動きとなっている。
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・前年は大手自動車メーカーの燃費不正問題による販売減が影響しているため、前々年と比較すると4月の販売量に変化はない。
乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・4月は3月の決算の反動で来客数が減少するが、例年よりひどい状況である。週末のイベント時の来客数が前年の60%で推移している。
乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・新型車の発表があったが、前年並みの販売量である。
自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・小売店は企業努力で利益を伸ばしてもメーカーの値引き操作によって儲からないため、売手市場、大手優遇が続く限り本当の意味での好景気にはならない。

その他専門店 〔和菓子〕(経営者)	来客数の動き	・大幅な来客数の変化はない。
その他小売 〔ショッピングセンター〕(所長)	来客数の動き	・有名衣料小売店が撤退した空き店舗で催事対応をしており、集客数では同等であるが、買上点数が減少している。
その他小売 〔ショッピングセンター〕(管理担当)	お客様の様子	・施設の自主イベントにより集客はあるものの、客単価と売上が伸びない。
高級レストラン (宴会サービス担当)	来客数の動き	・来客数に変化はない。
一般レストラン (経営者)	単価の動き	・花見が終わり、人の動きはあるものの販売単価が低下している。
都市型ホテル (スタッフ)	単価の動き	・来客数と客単価に変化はない。
都市型ホテル (企画担当)	来客数の動き	・宿泊では北米、欧州、アジアなど海外からの客が減少しており、特に個人客が顕著である。レストランは来客数、客単価共に微増である。
旅行代理店(営業担当)	お客様の様子	・年度初め並びにゴールデンウィーク需要で少し上向きであるが、世界情勢の影響を受ける業界であり海外旅行は慎重な動向が続いて減少傾向にある。
通信会社(総務担当)	それ以外	・季節的な要因もあり転出者数と転入者数が例年とほぼ同じである。
テーマパーク (管理担当)	来客数の動き	・入館者数と商品販売高は前年同月に比べて変動がない。
美容室(経営者)	競争相手の様子	・安売りの店に客が流れている。
美容室(経営者)	お客様の様子	・陽気が良くなってきたため客は外出する機会が増えているものの、節約志向に変化はない。
設計事務所(経営者)	競争相手の様子	・他社の不動産仕入れが活発化しているが、効果が出るまでには少し時間がかかる。
設計事務所(経営者)	お客様の様子	・新年度がスタートしたが予算削減の話だけが聞こえてくる。
設計事務所(経営者)	販売量の動き	・住宅、非住宅共に設計依頼が増えてこない状況がこじばらく続いている。
設計事務所(経営者)	単価の動き	・少し落ち着いていた建築費が再び上昇し始めている。建築現場では職人不足により工程管理に苦労しており、コストアップによって中断する案件も増えている。
住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・受注状況は横ばいで推移しており、大きな変化はない。
商店街(理事)	来客数の動き	・4月に入り天候不順が続き、様々な商品の値上げもあって客の生活防衛本能が働いている。
商店街(代表者)	単価の動き	・近隣に大型店が開店したので売上が低迷している。
商店街(代表者)	販売量の動き	・客の購買姿勢は非常に慎重で、客単価が低下している。
一般小売店 〔茶〕(経営者)	販売量の動き	・新茶の出荷が遅れており、旬のものがないことが売上に響いている。
一般小売店〔食品〕 (経営者)	単価の動き	・客の購買指向は低価格商品へ向いている。
百貨店(売場担当)	販売量の動き	・高額な五月人形は売れているが、100万円以上の宝石は売れず厳しい状況である。
百貨店(外商担当)	来客数の動き	・集客の原動力である食品部門の来客数と売上の減少傾向がここ数か月続いており、全館に影響が及んでいる。
スーパー(店長)	お客様の様子	・客の買上点数が伸びず、必要な商品だけを購入する傾向が強い。
スーパー(店長)	販売量の動き	・客の買上点数が減少しても、商品の値上げで1品単価が上昇していることで売上は前年を辛うじて越えている。今後は客に節約志向が広がることが見込まれる。
スーパー(財務担当)	来客数の動き	・気温の影響もあるが、来客数と買上点数が前年を下まわり、既存店の売上が前年割れとなっている。
衣料品専門店 (店長)	販売量の動き	・前年に比べてスーツの売上が大きく低下している。それ以外のアイテムの売上は上昇しているので単価の高い商品の動きが悪い。

	家電量販店（店長）	お客様の様子	・客に目立った動きはなく、財布のひもは固い。
	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・4月の大きな人事異動の影響が大きい。販売数が想定以上に減少している。人員不足を解消できていれば異動も最小限に止められたが、状況は非常に厳しい。
	住関連専門店（営業担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィークにイベントを予定しているの、現在来客数は少ない。
	その他専門店〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・客が高齢化しており、値頃感がある商品しか購入しない。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・例年であれば3～4月は歓送迎会があり来客数が増えるはずであるが、今年は極端に歓送迎会が少なく非常に危惧する事態となっている。
	その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（店長）	来客数の動き	・交通量が減少しているため来客数も減少している。
	タクシー運転手	お客様の様子	・4月前半は花見や歓送迎会で夜の客の動きが良かったが、後半は天候が安定せず、客の飲み控えの様子がかがえる。
	通信会社（広報担当）	単価の動き	・価格が低下しなければ物品が売れない。
	ゴルフ場（営業担当）	お客様の様子	・国内全体の景気動向に同調するように、5月以降のインバウンド予約の状況が悪化傾向にある。
	競艇場（職員）	販売量の動き	・売上が2～3か月前よりも低下している。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数は前年の100%で推移しているが、一般食品の買上点数が伸びないので売上が前年割れとなっている。特にペットボトル飲料、インスタントコーヒー、カップ麺、嗜好品など価格で販売量が左右される商品の動きが悪い。
	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・来客数が減少しているため、新車購入の話は少ない。
	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・需要期から閑散期になり、また仕入原価の高騰で販売価格も値上げとなることから販売量は低下している。
企業 動向 関連  (中国)	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・繁忙期である。
	鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・自動車関連製品を中心に受注が増加傾向にある。
	建設業（総務担当）	取引先の様子	・物件の引き合いが増えている。
	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・消費の落ち込みが影響し、コンビニやスーパーでの売行きが悪い。
	木材木製品製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・マイナス金利導入による住宅ローン金利の低下の効果が一段落し、新設住宅着工戸数も横ばいになってきているため、しばらく住宅業界では景気に変化はない。
	化学工業（総務担当）	それ以外	・為替や燃料安の外的要因により近隣企業の2016年期末決算は前期に比べ向上しているものの、今期の見通しが良くないことから各企業とも引き締め継続の模様である。
	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・生産量が増加して多忙であり残業時間も増えている。
	鉄鋼業（総務担当）	取引先の様子	・前月上向きつつあった景気が、その後一進一退で踊り場に差しかかっている。
	非鉄金属製造業（業務担当）	受注量や販売量の動き	・自動車向けと家電向けの需要は旺盛で、一部ではフル生産を継続している。
	金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は生産能力の70%しかなく、厳しい状況が続いている。
	輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・主要客から1日当たり受注量は3か月前とほぼ同等である。
	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・技術職に短期間の空きはできてきたものの、引き続き予定物件が順調に受注できている。
	通信業（営業企画担当）	取引先の様子	・取引先で前年度増収との話題があがるものの、IT関連について大きな設備投資の引き合いは少なく、現状維持での商談が多い。

	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・年度末の駆け込み需要で通信機器関係の更改があったものの、例年同期と同様の販売額と量であるため景気に変わりはない。
	金融業（融資企画担当）	取引先の様子	・地元の自動車部品メーカーの受注は高水準を維持している。
	金融業（貸付担当）	取引先の様子	・自動車の減少を半導体や鉄道用車両がカバーし、輸出高は3か月連続でプラスを維持している。
	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・業種によって受注量の変動はあるが、総合的に極端な変動はない。
	会計事務所（職員）	取引先の様子	・年度末の数字では公共工事の額が増えていないのに材料費が着実に増加しており、建設業は前年より利益が低下しているところが多い。
	コピーサービス業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・年度末の特需後なので受注量は減少している。
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費者は買い控えをしている。
	化学工業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・各メーカーが主要原料となる苛性ソーダの値上げを4月から強気に打ち出しているが、受注量が増加基調にあるのでこれを受けざるを得ない状況である一方、販売単価への転嫁は難航している。
	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量があまり増えておらず、国内景気は依然低調であるため価格上昇は見込めない。また原材料に関しては皮革関係の値上がりもありコスト面で非常に厳しい。
	輸送業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・作業戦力不足や長時間労働是正への取組から受注を制限せざるを得ないケースがあり、これまで同様の対応ができていない。
	不動産業（総務担当）	それ以外	・来客数、成約件数共に減少している。
	x	*	*
		-	-
雇用 関連  (中国)	人材派遣会社（経営企画担当）	求職者数の動き	・求職者数、求人数共に回復傾向にあり、即戦力を求める企業が増え、働き方改革への推進や事業強化の動きが活発になってきている。一方求職者にも動きが見られ、市場に活発な人材流動が起こりつつある。
	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・近年増加していた新卒採用が今年は少し落ち着いており、その代わりに中途採用の求人が増加傾向にあるため、今年は転職率が上昇する可能性がある。
	職業安定所（所長）	求人数の動き	・新規求人はスマートフォン向け電子部品製造や菓子製造が好調な製造業が前年同月比で2割増となっている一方で、卸売や小売業が2割減となるなど、求人全体では横ばいとなっているが、求人数は高水準となっている。
	職業安定所（雇用開発担当）	求人数の動き	・第4四半期の新規求職者数が前年同期比で増加し、求人数の増加に伴って求職者が条件のより良いところに移動しようとする意向が表れている。
	民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・海外進出や事業拡大に際してのノウハウを有するシニア人材の獲得、未経験者を採用しての技術者育成等、これまでにないターゲットの獲得を急いでいる。
	人材派遣会社（支社長）	求人数の動き	・新規求人数が前年より12%減少しており、企業の採用意欲は引き続き高い水準にあるものの、右肩上がりで伸び続けていた時期と比較すると一服感を示している。
	求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・内定が出るスピードが前年よりも早くなっている。
	求人情報誌製作会社（広告担当）	雇用形態の様子	・2018年新卒採用者数、年間採用の中途採用者数から見て、採用傾向はこれまでと変わらず微増で増え続けている。
	職業安定所（産業雇用情報担当）	求職者数の動き	・新規求職者数が3か月前より81.4%増加している。年度末は退職者が増える時期であり、大幅に増加しているように見えても前年より新規求職者数は減少しているため景気に影響はない。
	職業安定所（産業雇用情報担当）	求人数の動き	・3月の求人倍率は1.62倍で高止まりが続いている。
民間職業紹介機関（人材紹介担当）	求職者数の動き	・人手不足の解消が進んでいないため、働き方の多様性は必要であるが、国の施策が必要不可欠である。	

	学校 [ 大学 ] ( 就職支援担 当 )	周辺企業の様子	・採用活動では企業から学生や大学への熱心なアプ ローチが続いているとともに、マスメディアが発表す る採用動向でも大幅な採用数減少などの情報は見受け られない。
	新聞社 [ 求人広 告 ] ( 担当者 )	雇用形態の様子	・有効求人数は過去最高を更新しているものの、有効 求人倍率は上げ止まり感がある。企業によっては長引 く人手不足を反映して待遇改善をする動きが目立ち、 財務悪化につながる可能性もある。
x	-	-	-